

平成 31 年 4 月 1 日

青森県診療放射線技師会 殿

株式会社 千代田テクノル
線量計測事業本部
取締役本部長 新田 浩

ガラスバッジに関するご質問について

拝啓 貴社ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。日頃は弊社ガラスバッジサービスに格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

お客様からのご質問につきましては、下記回答欄をご覧ください。

今後とも末永くご愛顧を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

敬具

記

【お問い合わせ内容】

- ①個人用報告書のX件数の意味について
- ②個人用報告書で、1ヶ月の使用期間の線量が検出限界未満 “X”と、1ヶ月計の(0.0)との違いについて
- ③ 0.01mSv 単位のオプション報告について

【回答】

- ① 個人用報告書の X 件数の意味について

個人用報告書に記載されています線量下限値は、0.1mSv となっております。この線量下限未満につきましては、“X”で現しています。また、弊社の報告書では、累積の報告書の一部として、検出限界未満の回数を報告しています。

弊社のガラスバッジサービス取扱説明書に下記のように記載されています。

<http://www.c-technol.co.jp/monitoring/appendix/index.html>

該当の部分は、6 枚目 (54 頁) に記載されています。

Q 報告書の線量が検出限界未満（X）となっていますが、この値が積み積みでも影響はないですか。また、検出限界未満の回数を報告しているのはなぜですか？

A 放射線業務に従事された方の測定結果が検出限界未満となる状況が継続できることは、その施設の放射線防護体系が非常に良い状態で機能している証であり、放射線管理として理想的な状態です。
検出限界未満の報告は、個人線量が「ゼロ」であったとは限りませんが、あったとしても検出できない低いレベルであり問題ありません。
法律等では年限度として、個人線量の限度が設定されていますが、これは従事者の生涯線量が一定レベル以下に保たれたことを合理的に担保する手法ともいえます。
従って、弊社の報告書などでは、年間の線量だけでなく累積値の一部として検出限界未満の回数を報告しています。
理想的な放射線管理の目安となる検出限界未満「X」の報告が継続されることを確認いただき、放射線業務に従事される方も、またその施設の放射線管理を行う立場の方も、安心して仕事に就いていただければ幸いです。

②個人用報告書で、1ヶ月の使用期間の線量が検出限界未満 “X”と、1ヶ月計の(0.0)との違いについて弊社のガラスバッジサービス取扱説明書に下記のように記載されています。

Q 個人用報告書で、1ヶ月の使用期間の線量は検出限界未満（X）となっているのに、1ヶ月計は（0.0）となっています。なぜですか？

A 累積値の計算のときは、検出限界未満（X）を0.0として計算しています。

③ 0.01mSv 単位のオプション報告(有償サービス)について

ガラスバッジを照射試験等の研究目的で使用する場合に、お客様のご依頼により、X・γ線の測定値を0.01mSv単位に表示することができます。但し、測定値が、検出限界(0.05 mSv)未満の場合は”X”と表示します。また、測定値が10mSvを超えた場合は、通常の0.1mSv単位の報告となります。

以上